

今月はコレ！



近藤利紀プロフィール

KAZI、ボート倶楽部、スモールボート（舵社）、ルアーマガジン、ルアーマガジンソルト（内外出版社）などのボート記事、企画、取材、執筆、撮影、編集までこなすマガジンライター。釣具メーカーと契約するプロアングラーという一面も。つねにボート数艇を所有し、実体験と現場主義にこだわる。1970年生まれ、神奈川県箱根町在住。家族は娘2人と妻1人。

ProSmallBoater 近藤利紀のコレがお気に入り！ 人気の乾電池式コンパクト魚探に GPS プロッターが内蔵されたよ！



HONDEX

PS-501CN「ちょいナビ」

メーカーさんの努力ってすごいよね。だって乾電池式の魚探に、簡易版とはいえ GPS プロッターが内蔵されるんだから。しかも、値段は4万円を切るという低価格。高額商品ならいくらすごい機能を搭載しても「へえ〜」で終わるけど、低価格で高機能は、やっぱり「スゴイ！」。



標準ではちょいナビ本体と振動子（センサー）、トランザム金具の3点セット。釣りに使うなら、オプションの水溫センサーは必須ですよ！

3万円台のGPSプロッター魚探！

今回紹介するPS・501CN通称「ちょいナビ」は、ホンデックスが得意とする乾電池式魚探に、海岸線データを表示できる簡易GPSプロッターを搭載した画期的な新製品。これまで乾電池式魚探とハンディーGPSを併用していた人にはうってつけのアイテムといえる。なにせ魚探+1万円、GPSプロッターが付くから、便利この上ないよね。

魚探部分に関しては、ちょいナビと同時発売となるPS・500Cと同じで、これは昨年までのHE・51Cとほぼ同性能同機能。魚探性能としては、振動子を適正に取り付けられれば、水深100メートルくらいまでが実用範囲。振動子の周波数は200キロヘルツなので、海と湖のどちらの釣りでも使える。最近では湖でのワカサギ釣りでも魚探は必須アイテムだからね。

やはりコンパクトさで選ぶ！

GPSプロッターは縮尺800メートル以上でないと表示されないの、細かいポイントには対応できない。でも、航跡は記憶してくれるし、根や魚が釣れたポイントを登録しておける。もちろんポイントへのナビゲートもしてくれるのはやはり便利だ。また、出艇地を登録しておけるので、万が一の豪雨や濃霧で視界が効かないボタンの数は最小限だし、日本語表記なのでとても分かりやすい。ホンデックスの乾電池式魚探シリーズは、すべて防滴仕様なので、水をかぶりやすいスモールボートに最適。



ときの水先案内人としても心強いよね。

ちょいナビを本格的なGPSプロッターが搭載された10万円台の上位モデル（6インチは生産終了で残念！）と比較すると、かなりコンパクトであることが分かる。とかく荷物が多いボート釣りにおいては、軽量コンパクトな道具はやはり便利。写真では紹介してないけど、オプションの万能クランプ（BP03）を使って、本体と振動子を一体化させると、究極のコンパクトGPSプロッター魚探になる。

ちょいナビは発売前から大人気で、やっと僕の手元に届いたばかり。だからまだ評価する程度にしか使っていないんだけど、今後実釣で使うときには、充電式の乾電池と万能クランプ、そして水溫センサーを組み合わせるとワンセットにして使うつもり。

そうそう、この乾電池式魚探って、PWC（水上オートバイ）やカヤックで釣りをしている人にも絶大な人気があるから、PWCプロッターが搭載されたこのちょいナビは、まさに「引手数多（ひくてあまた）」だろうねえ！



12ボルト仕様なので、単三乾電池8本を使う。エネルギーなどの充電式乾電池と組み合わせると最強だよ。

分かりやすい
メニュー画面で
設定も楽々！

850カンデラの高輝度液晶で、直射日光下でも画面に表示される反応はしっかり見えるよ！

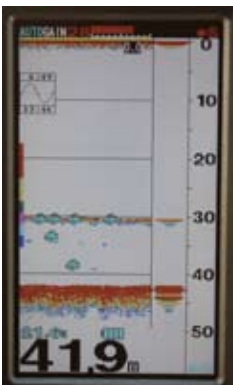
※注：写真は見やすくするために暗幕を使って撮影しています。

○航法画面



スモールボートの航行ではあまりこの表示を使うことはないだろう。

○魚探画面



拡大画面の同時表示も可能。潮汐グラフも釣り師にとっては便利な機能だろう。

○プロッター画面



左上の緯度経度は現在地、目的地と出艇地（設定時）がそれぞれの状況で表示される。



○魚探メニュー1



○魚探メニュー2



○特殊設定



○プロッターメニュー2



○プロッターメニュー1